



# 埋文だより

第35号

平成16年6月25日発行

## 秘められた鏡の力

— 芝原遺跡出土 小形仿製鏡と破鏡 —

日置郡金峰町の万之瀬橋近くの芝原遺跡から、弥生時代終わり頃のものと思われる鏡が4点出土しました。これらは小形仿製鏡と呼ばれる日本製の鏡と破鏡と呼ばれる中国製の鏡で、弥生時代の終わり頃、祭祀に使われたものと考えられています。他県の出土例などをみると、出土地のほとんどがその地域の首長層（支配者）の住んでいたところとされているため、芝原遺跡周辺にも首長層の集落があったと想定されます。これらの鏡は県内でも出土数が少なく、当時の社会を探る上で大変貴重な資料といえます。

(実物は右上の鏡が最大で、直径約8cm。中央が破鏡。)

鹿児島県立埋蔵文化財センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

埋蔵文化財センターホームページ：<http://www.jomon-no-mori.jp>

### 目次

- ・秘められた鏡の力 … 1
- ・遺跡紹介 … 2
- ・本年度の発掘・整理・報告書計画 … 3
- ・シリーズ「センターのしごと」 … 4
- ・シリーズ「むかしむかしの衣食住」 … 4
- ・プレイバック企画展・古代にふれる夏 … 5
- ・古代式リサイクルのすすめ … 6
- 埋文センター活用法 … 6
- 公立埋文協実施報告 … 6



# 遺跡紹介

## 県の指定文化財に！

### －埋設土器（福山城ケ尾遺跡）と黒川洞穴（吹上町）－

南九州の縄文時代早期（約7,500年前頃）の土器には、口の部分がすぼんだ、いわゆる「壺」の形をした土器があることが知られています。しかもこの土器は、埋められた状態で見つかることがあります。福山町の城ケ尾遺跡では、埋められた様子がよく分かる状況で発見され、このたび、県の有形文化財（考古資料）に指定されました。土器は火にかけられた後、埋設されていることから、何か特別な目的に使用された可能性も考えられます。

吹上町の黒川洞穴は昭和27年から数回にわたって調査が行われた洞穴遺跡で、東側の小洞穴と西側の奥の深い大洞穴からなり、前の広い場所につながっています。縄文時代後・晩期の土器や集石炉、土坑のほか、人骨、動物の骨などが見つかりました。特にこの遺跡で発見された型式の土器は、この洞穴名から「黒川式土器」と命名されており、このたび、黒川洞穴は県の史跡に指定されました。

① 黒川洞穴の入り口。現在は標高84m、海岸から6.5km離れていますが、当時は現在よりも気温が高かったため、海水面が上昇し、現在よりも海が近くにありました。



② 県指定となった埋設土器（福山城ケ尾遺跡）。縄文時代早期の埋設された壺形土器は出土例が少なく、貴重な資料です。



### 川原石の塚, みつかる －上水流遺跡（金峰町）－



① 石が間隔をあけて集められています（上水流遺跡）。人為的に造られたものですが、何のために並べられたのでしょうか。

上水流遺跡は万之瀬川下流右岸の自然堤防上にある遺跡です。

平成15年度の調査で、古代の終わり頃（11～12世紀）の層から人頭大の石を積み上げた遺構が6基、一列に並んだ状態で発見されました。この遺構は、四角形に石を並べた後、その内側には平坦になるように石を敷き、更にその上にも石を山積みしてありました。この塚状の遺構は墓と考えられましたが、地中には何も見つかりませんでした。これと似た遺構は県内でいくつか発見されていますが、何のために造られたものかわかっていません。

### 縄文時代のおとし穴猟 －桐木遺跡（末吉町）－

おとし穴は、イノシシなどの動物をとらえるための「わな」の一つです。狩猟採集生活をおこなっていた縄文時代に多くつくられました。これまで県内では、350基以上のおとし穴が発見されています。昨年度刊行した末吉町桐木遺跡の報告書では、縄文時代早期のおとし穴を3基紹介しています。いずれも底に杭状の小さな穴（逆茂木痕）が検出されています。逆茂木とは、穴の底に立てた先のとがった杭などのことで、落ちた獲物を動けなくするためのわなと考えられています。当時の人々が獲物をとらえるためにさまざまな工夫をしていたことがわかります。

② おとし穴の横断面。形をしており、深さは一・六メートル以上あります。底面からは逆茂木痕が一本見つかっています。









シリーズ

センターのしごと

第1回  
～「水洗い・注記」編～



みなさん、こんにちは！これからセンターで整理作業をしている柴山みな子さんと小田原美保さんに現在のお仕事についてインタビューしたいと思います。

縄文おじさん：まず、お二人はどんな仕事をしているんですか？

みな子さん：出土した土器などを、ブラシを使って水洗いする仕事をしています。

美保さん：私は、出てきた土器などに遺跡名や出土した層、番号などを小さな字で記入する仕事（注記）をしています。

縄文おじさん：仕事をしていて、どんなところが楽しいですか？

みな子さん：土を洗い落として、模様や形が見えてくるときが楽しいです。

美保さん：小さくきれいな文字で書けたときです。

縄文おじさん：作業で工夫していることがありますか？

みな子さん：洗う時、隣の遺物と重ならないように整理しながら、かごに並べています。

美保さん：ルーペを使って、出来るだけ目立たないように書いています。

縄文おじさん：どんなことを考えながら作業をしていますか？

みな子さん：洗い終わった土器についている墨書やすすのあとを見て、昔の人がどのように使っていたのか想像しながら仕事をしています。

美保さん：注記は小さいだけでなく、わかりやすい字になるように心がけています。

縄文おじさん：細かな作業、本当にご苦労様です。みな子さん、美保さん。ご協力ありがとうございました。これからも整理作業がんばってください！



① 「割れた部分は接合できるかもしれないので、特に注意して洗います」と柴山みな子さん。



② 注記の例



① 出土した遺物1点1点に1mm程度の小さな字で遺跡名や番号などを記入する。「細かな作業も数をこなすとだんだん上達してきますよ」と小田原美保さん（手前）。

シリーズ

むかしむかしの

衣食住

第1回  
「衣」編

ここでは「むかしむかしの衣食住」ということで、県内の遺跡や出土した遺物などからむかしの人々の生活（衣食住）について考えてみたいと思います。3回シリーズですが、第1回目は「衣」についてです。

みなさんは縄文時代以前の人々はどのような格好・服装をしていたと思いますか？マンガや映画などの影響なのか、このころの人々は裸に近いか、毛皮をまとっていたというイメージが強いようです。実際には服を着ていたようですが、植物や動物などからつくられたものは腐ってしまうので、服そのものが発見されることはなく、はっきりとはわかりません。

現在、復元されている縄文時代の服は、土偶の文様などから考えられたものです。また、土器づくりの際に、底に敷いた布のあとが残った土器（組織痕土器）が数多く発見されています。この布のあとを研究した成果によると、植物などで糸をつくり、これを「編布編み」という方法で編み、布にしていたことがわかっています。



① 表面にあみ目のあとがついた土器（前原遺跡、縄文時代晩期）

弥生時代になると、布を織る道具（機織り機）が大陸から伝わります。また、この時代になって使われ始めた道具に紡錘車があります。紡錘車は、繊維を糸にするものです。この糸を使って機織り機で織物をつくります。

薩摩国府跡では平安時代の人々を墨で描いた土器器が発見されました。この絵には「水干」という下級の役人などが着ていた服が描かれ、当時の服装を具体的に伝えてくれる貴重な資料となっています。



① 鉄製の紡錘車（大ケ原遺跡、古代）。土器のかけらを再利用したものや木でつくられたものもあります。



① 戯画土器（薩摩国府跡、平安時代）



# プライベート企画展 特別

Uenohara Jomon no Mori, Kagoshima

「上野原縄文の森」展示館では、県内各地の遺跡で出土した遺物等の収蔵品を活用して、展示館1階の企画展示室で特別企画展を開催しています。平成14年10月のオープン以来、ほぼ3か月ごとに新しい展示を行い、これまで計8回の企画展を開催しました。鹿児島県内の遺跡や出土した遺物等が身近に感じられると評判も上々です。

最近の特別企画展と第9回特別企画展のテーマ・内容をご紹介します。

第6回特別企画展(平成15年11月1日～2月8日)

## ”火山”と共に生きた人々 ～火の国 鹿児島～

年代決定の重要なカギとなる火山灰をテーマに、火山と共に生きた人びとの歴史を考古学的な視点で紹介しました。



第7回特別企画展(平成16年2月14日～4月18日)

## 新発見!2004速報展

鹿児島県立埋蔵文化財センター

平成15年度に発掘調査で出土した遺物や、整理作業で復元、分類された遺物を紹介しました。



第8回特別企画展(平成16年4月24日～7月11日)

九州新幹線開業記念特別企画展

## レール下の物語



九州新幹線開業を記念し、新幹線のレールの下に眠る遺跡の一部を紹介しています。

次回予告

第9回特別企画展(平成16年7月17日～10月17日)

## 「命と祈りの考古学」



県内の古墳や祭祀の痕跡が残る遺跡や遺物にスポットをあて、古代の人びとの命に対する思いを紹介する予定です。

◎大崎町 横瀬古墳 (国指定史跡)

## 古代にふれる夏

—ジョイJOYじょうもん体験—

①「竪穴住居宿泊体験」の様子です。  
とまどいながらも、寝てみればいたって快適！  
星空のもと、すてきな夢を見たことでしょう。



※『夏休み1泊2日体験コース』は定員に限りがあります。あらかじめご了承下さい。  
なお、詳細につきましては上野原縄文の森  
(0995-48-5701) までお問い合わせください。

上野原縄文の森では、大自然とふれあい、学び、楽しみながらの体験活動を通して、古代への関心を深めてもらうことを目的とした事業「ジョイJOYじょうもん体験」を定期的で開催しています。その中で、夏休み期間中に、特に縄文の森の世界をたっぷり楽しんでもらおうと1泊2日体験コースを設けています。  
今年度も下記のとおり実施しますので、ふるってご参加ください。

### 夏休み1泊2日体験コース (各回10:00～翌13:00)

- 7月24日(土)～7月25日(日)  
「竪穴住居宿泊体験」「カブトムシ ジョイリンピック」  
「ナイトハイク スターウォッチング」等
- 8月21日(土)～8月22日(日)  
「竪穴住居宿泊体験」「縄文土器作り」  
「縄文料理を作ろう」等

みなさんの参加お待ちしております!!



# 古代式リサイクルのすすめ

展示紹介  
第2回埋文アートギャラリー開催中

埋文アート  
ギャラリー  
Gallery



2つの孔をカズラなどの植物で結び土器が壊れるまで使ったと考えられます。

①石坂式土器  
三角山遺跡(中種子町)

発掘調査では、古代人がさまざまな工夫をこらし、物を大切に使用していた様子を知ることがあります。第2回目の埋文アートギャラリーは「古代人のリサイクル精神」をテーマに展示しています。出土した縄文土器には補修孔と呼ばれる孔があるものが見られます。この孔は、土器が割れたときに割れ目の両側に穴を開けて植物の繊維などで結んで補修した跡です。また壊れた石器を違う用途の道具に転用して再利用したものも見られます。現代人の私たちも見習う必要があるかもしれませんね。



埋文センター2階ロビーにて開催中です！

高坏の脚を再利用した縄の羽口



②榎木原遺跡(鹿屋市)

## 埋文センター活用法

### 土器や石器がみんなの教室に出張します!!

埋蔵文化財センターでは、膨大な収蔵資料を有効に活用し、学校教育や生涯学習の場で役立てていただくため、県内の小中学校や高校、公共機関などを対象として、遺物や写真資料の貸し出しを行っています。先日は横川町立安良小学校に縄文土器、弥生土器などを貸し出しました。貸し出した遺物は6年生の社会科の授業で使われ、児童たちは熱心に時代による土器の違いなどを学んだようです。教科書で見るだけでは味わうことのできない実際に触れるという感動を、さまざまな場で活用してみませんか？

みんな真剣な顔で土器を観察していますね！



後日、安良小6年生より、お礼の巻紙と感想を書いた日記をいただきました。ここで日記の一部を紹介いたします。安良小のみなさん、本当にありがとうございました！

物をさわりました。さわる時、とてもドキドキして、いました。昔のことないたとまんりかしました。ゴールデンウィークは上野原に行きたいです。

上野原の本

③普段できない体験ができましたね。ぜひ上野原遺跡へ遊びに来てください！

### 調査・研究の充実を...

—公立埋文センター連絡協議会実施報告—

5月27・28日の2日間、全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会が隼人町で行われ、各道府県の埋文センター70機関が参加しました。1日目の総会では遺跡の調査や研究の充実に関する意見交換、また鹿児島大学法文学部教授の新田栄治先生の講演が行われました。2日目は上野原縄文の森や隼人塚の視察を行いました。



総会の様子

埋文だより 第35号

発行日 平成16年6月25日  
編集・発行  
鹿児島県立埋蔵文化財センター  
〒899-4461  
鹿児島県国分市上之段1175番地1  
TEL 0995-48-5811  
FAX 0995-48-5820  
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp

お問い合わせ：TEL 0995-48-5811(埋蔵文化財センター)  
E-mail minami@jomon-no-mori.jp